

## KWFCに関する議論 議事録 (司会・酒向さん)

- 酒向さんのPDFファイルを参照のこと。
- 三戸さんのメモにもとづいて作成。

### ■KWFC への要望

#### 浮田さん、他

- ✓ 観測ログはどうなるのか。客観的事実が残る様にして、2次利用を可能に。
  - ←赤外雲モニターの画像も?
  - ←2KCCDでは紙のみ
  - ←ログの個性を消す? 観測者の個人差を消す?
  - ←リアルタイムで自動的に観測ログが残る(諸隈さんの発表内容)
- ✓ SMOKAを使うと、ゴミデータが多い。
  - ←観測の際、FITSヘッダに書かれた情報に間違いがある。
  - ←オブジェクト名がばらばら。
  - ←観測日が違う
  - ←紙のログには注意書きが書かれているのだが
- ✓ 必要以上の情報が載っているのも問題?
  - ←見ればわかること。
- ✓ ログを書かなくてもいい様に?
  - ←紙のログシートならではの情報も残るので、書き続けてほしい。

#### 三澤さん

- ✓ KWFCになってもオートガイドは使用可能か。
  - ←特に変更はない。使える見込み。

#### 山内さん

- ✓ KWFCのメインサイエンスは。
  - ←まだ決まっていない。今回のシンポジウムやこれからの検討で決める。

#### 上塚さん、他

- ✓ 解析パイプラインについてももう少し詳しく。
  - ←観測所内でのリアルタイム解析などで使うだけでなく、ユーザにも配布する。
  - ←観測者がパラメーターをいじれる様にもしたい。
  - ←観測者が好みの較正データを使える様にする
  - ←ある程度のレベルで満足できる研究者用に、パイプライン処理済みのデータも公開してほしい。細かい解析が必要なら個別にやればいい。

- ←どのくらいのレベルで公開すればいいのか。
- ←どういう環境でも使えるソフト？（←Perl と C 言語が基本）
- ✓ UKIRT で行われているような解析が可能か。
  - ←UKIRT では一次処理、ディザリング処理もやってくれる。
  - ←反面、（観測時に？）いろいろなパラメーターを決めなくてはならないので面倒。
  - ←UKIRT のレベルまで木曾観測所でやるのは難しい？

山田さん、他

- ✓ ロボットアームは、筒の中にあるのに白くていいのか。
  - ←黒くしたい。
  - ←どのくらい影響があるのか。
- ✓ フィルター交換に時間がかかるのが問題では。
  - ←人によっては、頻繁な交換が必要な人がいるのでは。
  - ←世界的に見れば、標準的な速さだと思う。
  - ←読み出している間にフィルター交換ができるといい（ノイズが増えなければ可能？）。

坂本さん

- ✓ 望遠鏡コントローラーとの相性について。
  - ←KWFC のソフトが落ちたら、望遠鏡のソフトも立ち上げ直さないといけないのか。片方のみの立ち上げだけにしてほしい。
  - ←KWFC の立ち上がり速度は、2KCCD より早いと思う。

## ■大規模サーベイ観測について

—どうすれば大きなアウトプットを出せるのか

西浦さん

- ✓ 世界で競争するためには、かなり特殊な観測をする必要がある。  
大規模サーベイの必要性は理解できる。
- ✓ 必要なマンパワーがあるか。誰が観測するのか。
  - ←最初は自分たちで観測する必要がある。
  - ←安定してきたら、スクリプトで観測できる様にする。
  - ←遠隔制御とあわせてマンパワーが補えればいいモデルになる。

渡部さん、他

- ✓ ハイレベルなアウトリーチを研究に結び付けられないか。
  - ←眠っているマンパワーを掘り返す

- ←大規模サーベイの一日を負担してもらう？
- ←生徒たちのクラブ活動として実現できるのでは  
(←高校生は経験が浅い人がほとんどとなる)。
- ←若年層(高校生など)ではなく、定年後の研究者も力となれる？
- ←Galaxy Zooのようなシステムで超新星の発見に利用する？(←ネットワークの速さが問題となるのでは)

伊藤さん、他

- ✓ プロジェクト専用の望遠鏡となるのか
  - ←そういうつもりはない。
- ✓ 複数のプロジェクトを並行して走らせるのか。
  - ←暗夜、明夜の棲み分け
  - ←案外マッチングしないのかも(あらかじめのチェックが必要)
- ✓ 共同利用観測の一部を組み込んでもらうこともできるか
  - ←彗星なら 1天体/日 でいい
  - ←大規模サーベイの領域を日々知らせてもらうと、自分の観測を組み込むのに便利

西浦さん、他

- ✓ 長期プロジェクトの期間を長くして、1年あたりの観測時間を減らしてもいいのか。
  - ←超新星の場合は早く発見したい
  - ←変光星の場合は3年(あるいは5年くらいまで)で結果が出ればいいが、新星・矮新星の探査では早く発見する必要がある。

田中さん、他

- ✓ 視野が広がるので、その分観測時間が少なくなってもいいのか。
  - ←単純にそうはならないだろう